

民俗芸能の心

みちのくの鬼たち

— 鬼剣舞の里 —



鬼けんばいの里

——みちのくの鬼たち——

——本田安次——

(早稲田大学名誉教授)

東北地方の岩手、宮城両県下に、「けんばい」と呼ばれる踊りがかなりひろく行なわれています。念仏けんばい、鬼けんばい、雛こけんばいなど。けんばいは、剣をとってのへんばいということらしく、へんばい(反閉)は中国の言葉で、悪魔を踏み鎮める一種の足踏みを意味したようです。そして今「けんばい」と云えば、そえは念仏拍子で踊る踊りという意に用いられています。

大念仏けんばいには、多く直径六尺もある大きな笠に、三重や五重の塔を中心に、四門、花などを飾って冠り、これをくるくると廻しながら踊る笠振りが出たり、鬼けんばいには阿吽あうんの面をつけた鬼たちが出て、太刀くぐりなどがあって踊ります。雛こけんばいには剣のかわりに、つぼけと呼ばれる花錫杖しやくじょうを持った稚児ちごたちが出ます。この度はこれらのうち、鬼けんばいが主としてとり上げられました。

平和な、美しい岩手の里に、盆になるとこの鬼けんばいの一団が家々を訪れ、父祖たちの霊をなぐさめて踊ります。この鬼というのは、伝説によると、「高館物怪」とも称し、その昔、高館で亡びた義経主従の亡霊ごさんねん らうき(後三年の役の亡霊とも)が夜な夜な現われ、高館御所、伽羅の御所、柳の御所と荒れまわり、人々恐れおののき、胆玉も抜かれる騒ぎに、清衡公も捨ててはおけず、中尊寺一山三百禪坊の僧達に命じて、七日七夜が間、山王山にこもって祈念せしめた。ところが何処よりもなく猿猴現われ来り、やがて亡魂に交って、拍子面白く阿修羅踊りを踊りつれ、次第に猫間が淵へと退散し、以後は絶えて姿を現わすことはなかった。けんばいはこの阿修羅踊りに形どったものと云います。

このけんばいも、所により伝承に若干ずつの相違がありますが、もっとも古風と云われる胆沢郡衣川村川西のものには、武者十人のほかに、若二、やえん一、道化面の座敷もち一などが出ます。武者は頭に羽ざいをつけ、笛、太鼓に合わせてきびきびと踊ります。そして念仏けんばいと称していますが、けんばい、おっこみ、おっこみくずし、魔王、式けんばい、いかものなどの曲を伝えています。また、和賀郡岩崎の鬼けんばいでは、八人の阿吽あうん面のもので出ますが、毛ざいを振り振り颯爽と、一番庭、引き念仏、せんや念仏、狂い、二番庭、三番庭などを踊ります。大人、少年たちの稽古風景ともども、これらの踊りが、平和な環境によく合って、まことに美しく写し出されています。



毎年中尊寺の施餓鬼に踊られる(川西念仏剣舞)



桜吹雪の中で踊る川西念仏剣舞
(三人イカモの踊り)

映画「みちのくの鬼たち・鬼剣舞の里」について

村山正実
(映画監督)

この映画のシナリオを書くために、岩手県の衣川村に川西念仏剣舞保存会の会長でもあり、庭元でもある佐藤円七さんを訪ねた時のことでした。

庭元とは農業を営む傍ら、地域の中にあって代々剣舞の芸能一団を率いてきた一座の座元のことです。十三歳の時から剣舞を踊り始めた七十三歳になる佐藤さんは、近頃剣舞の踊りを頼まれると、踊りの部分だけになり、踊りの前後つく念仏を唱える作法が省略されてしまうことが多いことを嘆いておられました。

また、今は八人で踊る本格芸「大念仏踊り」も全員揃って踊ることとも難しくなったということでした。

この時、庭元の「代々の庭元が心血を注ぎ、昔のまま伝承してきたこの剣舞を自分の代で絶やすことはできない。この踊りを伝え残すことは自分の使命だ」というひと言がひどく胸に響きました。

庭元のこの時の言葉がこの映画を撮ってみようというきっかけになりました。

今回の記録映画では、国の指定を受けた四つの鬼剣舞のうち、衣川村の「川西念仏剣舞」と、和賀町の「岩崎鬼剣舞」の二つを取り上げました。

とくに川西の剣舞は、昔から平泉の中尊寺の施餓鬼で演じられるなど、古くから伝わる念仏の作法や芸をほとんど変えないまま今も踊られているもっとも由緒のある剣舞とされています。

この踊りは念仏剣舞と呼ばれているように浄土教的な色彩が濃く、念仏によって人々を救う「衆生済度」の踊りです。

一方岩崎鬼剣舞は勇壮で華麗、躍動的で、極めて洗練された踊りで、力強い足踏みによって大地の悪霊を退散させ、五穀豊穰を祈る踊りです。

映画ではこの二つの鬼剣舞の対照的な踊りを見せることで、剣舞の歴史的な背景や踊りの系統の違いも感じとって貰いたいと考えました。

映画の前半では剣舞の背景にあるみちのくの歴史を頭において剣舞の由来と地域の芸能としての変遷を描き、鬼剣舞の鬼とは何者なのかを考えました。

かつて中央から鬼というかたちで否定された人々がいた。自分たちの置かれた歴史を見直すことで「鬼はいわゆる鬼ではなく。自分たちの先祖ではないか」というみちのくの人達の思いです。

後半は、この剣舞をどう未来に伝えていくか、子供たちの伝承活動を通して地域社会と子供たちを繋ぐ民族芸能の生きた姿を描くことでした。ここにこの映画のテーマ（主題）があると考えたのです。

今回は剣舞の踊りの前後に付く念仏歌もきっちり描いてみました。そのことでいままでの鬼剣舞のイメージとは違った映画が出来たかと思います。



村々の念佛供養塔



剣舞供養塔の前での念仏供養(岩崎鬼剣舞)



岩崎鬼剣舞の一番庭の踊り



門付けに行く、川西念仏剣舞の一行



新仏の家での大念仏踊り(川西念仏剣舞)



川西念仏剣舞(中尊寺の施餓鬼に踊られる)



鳥ザイに猫足の面を付けて(川西念仏剣舞)



一人加護の踊り(岩崎鬼剣舞)



ヘギまわしとも云われる膳前一人踊り(岩崎鬼剣舞)

作品名：シリーズ〈民俗芸能の心〉

「みちのくの鬼たち」

—鬼剣舞の里—

(35mm/カラー36分)

企画：(財)ポーラ伝統文化振興財団

製作：(株)桜映画社

監修：本田安次

製作スタッフ

製作：村山和雄

脚本演出：村山正実

撮影：村山和雄

木村光男

山屋恵司

撮影助手：今野聖輝

照明：水村富雄

本橋俊男

音楽：山崎 宏

編集：吉田栄子

ネガ整理：守随房子

解説：加賀美幸子

録音：アオイスタジオ

タイトル：菁映社

現像：ソニーPCL

撮影協力

岩手県衣川村/衣川村教育委員会

岩手県教育委員会

盛岡市教育委員会

北上市教育委員会

衣川川西大念仏剣舞保存会

岩崎鬼剣舞保存会

上鹿妻念仏剣舞連中

盛岡市都南歴史民俗資料館

中尊寺/北上市立鬼の館

平泉文化史館/関根太鼓店

スチール撮影・桑野恒郎

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

<http://www.polaculture.or.jp>

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-2-10 ポーラ第2五反田ビル

TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597

Ⓐ 3,000 96・7